

- 問1 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。（2024年 北海道公立入試 類似）
1. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐる対立したため
 2. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため
 3. 大陸から伝来した仏教の布教をめぐり、信仰の違いから衝突が起きたため
 4. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため
- 問2 千葉県茂原市の宮ノ台遺跡から出土した、弥生時代中期の代表的な土器である「宮ノ台式土器」が作られていた頃の世界情勢について、日本の状況と関連付けて説明したものとして正しいものはどれですか。（2023年 千葉県公立入試 類似）
1. 日本では仏教が伝来し聖徳太子が政治を行っていたが、世界ではメソポタミアでハンムラビ王が法典を制定した。
 2. 日本では狩猟や採集が生活の中心であり、世界ではエジプト文明においてピラミッドが建設されていた。
 3. 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。
 4. 日本では鉄器の使用が始まったばかりであったが、世界では中国の殷（商）が文字や青銅器を使用し始めていた。
- 問3 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）
1. 邪馬台国
 2. 高天原
 3. 倭国
 4. 日本
- 問4 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. 高床倉庫
 2. 竪穴住居
 3. 前方後円墳
 4. 環濠集落
- 問5 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
1. 漢委奴国王の称号と、金印
 2. 倭王武の称号と、鉄剣
 3. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧
 4. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡
- 問6 中国の歴史書である『魏志倭人伝』は、日本の古代社会を知る上で非常に重要な史料です。この書物において、日本の「道路」に関する最初の記録が残されている背景を考慮し、当時の社会状況の説明として適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）
1. 律令国家の仕組みが整い、地方と都を結ぶために全国規模で「駅制」という道路網が完成した様子が記されている。
 2. 墾田永年私財法によって開墾された土地へ農民が移動するため、政府が初めて本格的な道路建設に着手したことが記されている。
 3. 鑑真が仏教を広めるために日本を訪れた際、僧侶が移動するための専用の道路が全国に整備されたことが記されている。
 4. 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。
- 問7 弥生時代の日本列島では、鉄器と青銅器という2種類の金属器が使われていました。鉄器が主に生産や戦いの道具として発展したのに対し、青銅器が主に「祭祀や儀式的道具」として用いられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 大陸から伝わった時期が鉄器よりも大幅に遅く、すでに農具としての鉄器が普及していたため
 2. 加工が非常に困難であり、当時の技術では小さな鏡や鈴の形にするこ
 3. 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため
 4. 青銅には殺菌作用があると考えられており、食料の保存や医療用の道具として限定的に使われたため
- 問8 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。（2023年 長野県公立入試 類似）
1. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。
 2. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。
 3. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。
 4. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。
- 問9 弥生時代の集落において、収穫した稲を保存するために用いられた建築物の構造と、その目的について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
1. 建物の周りに深い堀を巡らせ、収穫物が雨水によって浸水したり流失したりするのを防ぐ排水機能を重視した。
 2. 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。
 3. 地面を円形や方形に掘り下げて床とし、防寒性を高めることで家族が共同で生活するための居住空間とした。
 4. 建物の周囲に石垣を高く積み上げ、収穫した作物を敵対する他の集落による略奪から守るための防衛施設とした。
- 問10 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）
1. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。
 2. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。
 3. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。
 4. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。
- 問11 日本列島で稲作が広まり、人々が竪穴住居に住んで定住生活を行っていた時代について説明した記述があります。その記述には、大陸から伝わった銅鐸や銅鏡などの青銅器が祭りの道具として用いられていたことや、当時の中国の歴史書において日本が「100余りの国」に分かれていたと記されていることが示されています。この時代の名称として正しいものを選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 弥生時代
 2. 奈良時代
 3. 縄文時代
 4. 古墳時代
- 問12 当時の日本（倭）では多くの小国が分立して争いが続いていたことが中国の歴史書に記されています。このような状況下で、邪馬台国の卑弥呼が魏に使節を送り、皇帝との外交関係を築いた主な目的は何ですか。（2019年 広島県公立入試 類似）
1. 魏の進んだ鉄器製造技術を独占することで軍勢力を高め、武力によって一気には日本列島を統一するため
 2. 魏が定めていた律令などの法律や官僚制度を取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の仕組みを整えるため
 3. 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため
 4. 大陸で広く信仰されていた仏教を日本に導入することで、宗教の力によって国内の戦乱を鎮めるため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問2	答え 3 日本では稲作が定着し、地域ごとに特色ある土器が作られる一方で、西洋ではローマ帝国が地中海を支配していた。	宮ノ台式土器が作られた弥生時代中期は、日本列島で稲作を基盤とした社会が確立し、小国が形成され始めた時期です。これと同じ時期、世界の西側ではイタリア半島から勢力を伸ばしたローマが、北アフリカや西アジアを含む地中海一帯を版図に収める巨大な帝国を築いていました。歴史学習においては、日本の時代区分と世界の大きな出来事を結びつけて理解することが重要です。
問3	答え 3 倭国	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。
問4	答え 1 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問5	答え 4 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 4 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。	日本の道路についての最初の文字記録は、3世紀の『魏志倭人伝』に見られます。この時期は卑弥呼が邪馬台国で約30の国を従えていた時代であり、中国との外交や国内の統治に関連して、当時の日本の様子が記述されました。律令国家による体系的な道路整備（駅制）は7世紀後半から8世紀にかけてのことであり、卑弥呼の時代よりも後の出来事です。
問7	答え 3 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため	青銅（銅とスズの合金）は鉄に比べて柔らかく、激しい衝撃が加わる武器や農具として使うとすぐに傷んでしまう欠点がありました。しかし、鑄造によって複雑な模様を表現しやすく、磨き上げると金色に輝くといった装飾的な特徴があったため、集団の結束を高めるための祭りや、神聖な儀式の象徴として利用されるようになりました。
問8	答え 2 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問9	答え 2 床を地面よりも高い位置に作り、風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ネズミなどの害を防いで稲を貯蔵した。	弥生時代に本格的な稲作が始まると、秋に収穫した米を翌年の春まで保存するなどの長期間の貯蔵が必要になりました。高床倉庫は、床を高くすることで地面からの湿気が伝わるのを防ぎ、米が腐るのを抑える工夫がなされています。また、柱の上の部分には「ねずみ返し」と呼ばれる板が取り付けられ、食料を食い荒らすネズミの侵入を防いでいました。選択肢にある地面を掘り下げる建築物は竪穴住居であり、主に居住用として使われていたものです。
問10	答え 3 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問11	答え 1 弥生時代	紀元前数世紀から紀元後3世紀頃にかけての日本列島では、大陸から伝わった水稻耕作（稲作）が普及し、食料生産が安定したことで社会の仕組みが大きく変化しました。この時代、鉄器が武器や工具として使われる一方で、銅鐸などの青銅器は豊作を祈るための祭礼具として重宝されました。また、中国の歴史書『漢書』地理志には、当時の日本（倭）が100余りの小国に分かれ、一部の国が楽浪郡を通じて中国（漢）に使者を送っていたことが記されています。
問12	答え 3 魏の皇帝から倭王としての国際的な承認を得ることで、国内の他勢力に対して優位に立ち、支配を安定させるため	弥生時代の日本列島は、多くの小国が争う「倭国大乱」と呼ばれる混乱期にありました。卑弥呼は、大陸の強国である魏から公式に「倭の王」として認められることで、自らの地位の正当性を高めようとしていました。授かった金印や銅鏡を国内の有力者に分け与えることは、自らの権威を可視化し、他の小国を従わせるための高度な外交手段でした。なお、仏教の伝来や律令の導入は後の飛鳥時代以降の出来事です。